

皆さんへ

R2.4.24 倉崎千草

4月下旬にしては肌寒い日が続きます。
それでも、中庭の池からはひっきりなしに蛙の大合唱が聞こえてきます。
今年の蛙はやけに賑やかだなと思ってすぐに「そうか。校舎に生徒の声がないからなんだ」と気づきました。
教室から響く生徒・教員の声、休憩時間のざわめき、部活動のかけ声。
そんな賑わいと活気が少しでも早く戻りますようにと願っています。

臨時休校1週間が経過しました。
体調はいかがでしょう。生活リズムは保たれていますか。
皆さんも我々も、経験したことのない日々と向き合っています。辛抱が続き、不安が増すのは当たり前のこと。でも、この期間がもし無目的・非生産的な時間つぶしで流れてしまったら、あまりにももったいないですね。

今日は、「この時期だからこそ、こんな試みはどうですか？」を二つ紹介して、皆さんへのメッセージとします。

★「健康観察・学習と適度な運動・家(寮)の手伝い」は大前提！

(1) 1日一つ、言葉を書き留める = 1日1日を記録と記憶に刻む

新聞、テレビ、本、もちろんの教科書の中にも、何か皆さんの心に響く言葉、元気を与えてくれる言葉があるはずです。

1日一つを記録して、日々の記憶として刻むのはどうでしょう。

たとえば22日の私は・・・

「命の次に大切なものは一人一人違うと思うんです。

音楽、スポーツ…。ほかの人が大事にしていることに思いを馳せる、寛容になってることが今こそ必要だと思うんです。」

(劇作家：平田オリザ氏の言葉 4/22NHKのインタビューより抜粋)

(2) 手紙を書く

スマホでも電話でもなく、手紙(はがき)を書く。

この春、感染症拡大の混乱の中でも、卒業、入学、就職、転勤、転居など多くの人に新たなスタートがありました。
先輩、昔の友だち、小中学校の先生などに、懐かしい顔を思い出しながら、ちょこっと書いてみるのはどうでしょう。
封をする、切手を貼る、投函する。
普段はなかなかできない、でも心の伝わるひと手間ではないでしょうか。

